

XI. 取組の総括

XI-1. 取組の目標達成の状況

今回の取り組みの主な目的は2011年度入学生を対象に就業力を育成し、大学全体の就業力教育を進展させることである。よって、その最終的な成果は、2011年度入学生の就職、さらには就職後の就業の継続をもって測られるべきであろう。そこで、現時点での総括はあくまで中間報告にならざるを得ない。しかし、そうであったとしても、この2年間の取り組みは、経済学部、さらには創価大学全体の就業力育成を大きく前進させたといえる。まず、取組①で掲げた「社会貢献と経済学」(1年次後期、「経済特論I」)を開設し、45名の受講者を得ることができた。また、取組②の1年次末の「就業力測定テスト」を実施した。また2年次の「進路の仮決め」と「希望進路調査」を2012年度より導入する準備をした。さらに、取組③の「キャリアのための個別学習マップ(My Map)」の開発を学部教員全員で行った。最後に、取組④の海外キャリア研修の実施および国内・海外インターンシップの拡充として、カナダ・バンクーバーの海外キャリア研修をあらたにスタートすることができた。

また、進路就職に関するPDCAを統括する組織として、「創価大学グランドデザイン・進路就職問題検討委員会」での討議により、2011年4月に「創価大学キャリア委員会」が設置された。副学長、キャリアセンター長、各学部学部長補佐、学部事務長、教務・学生・キャリアセンター職員で構成され、全学の進路就職に関する目標を設定し、その目標の達成に向けて具体的な取り組み内容を検討する組織である。2011年度は2ヶ月に1回、委員会が開催された。その検討結果として、本GPの取組②と取組③を全学展開することが決定された。そのため経済学部キャリア委員会が進めている本取組が、他学部のキャリア委員会にモデル事例として取り入れられている。

しかし、現時点での最大の成果は、学部教員、さらに学生が「就業力」について高い意識を持つことができたことである。学部FD、さらには教授会の議題で、教員間で就業力について繰り返し議論する機会を得た。その中で、学部教育と就業力の関係について議論を深められたことは今後の学部教育の方向性を考えるうえでも、非常に有益であった。さらに、こうした教員の意識改革は学生にも影響を与え、学生の就職・就業力育成に対する意識は大きく前進したといえる。それは、98%という就業力測定テストの高い受験率に端的に表れているといえるだろう。

しかし、先に指摘したように、就業力育成の取り組みはこれからいよいよ本格化するといえる。そこで以下で今後の取り組みの課題をまとめたい。

XI-2. 今後の取り組み

今後の取り組みでは、課題ごとに目標とその検証方法を明確にし、PDCAサイクルを回していくことが必要である。

(1) 卒業生アンケートによる成果の検証

卒業式の際に、卒業生全員にアンケートを取って、就職・進路について調査を行う【資料参照】。その中で、学部教育と就業力育成の関係について分析を行っていききたい。

(2) 具体的な取り組みごとの今後の課題

取組①「社会貢献と経済学」（1年次後期、「経済特論Ⅰ」）

1. 履修者の増加

1年次後期には全員が、大学の共通科目で提供しているキャリアデザイン基礎と「社会貢献と経済学」のいずれかを履修するようにするべきである。2014年度に予定されているカリキュラム改正では、必修化も含めて検討したい。

2. より実践的なカリキュラムの開発

プロジェクトを行うなど、より実践的なカリキュラムの開発が求められる。

取組②の「就業力測定テスト」「進路の仮決め・希望進路調査」

1. 「就業力測定テスト」

2012年度より就業力測定テストを全学に導入する予定である。その際、経済学部で示されたような高い受験率（95%以上）を確保できるかが課題となる。経済学部の場合は、「同テストを受験しなかった場合は、2年前期に行われる専門ゼミの選考で著しく不利になる」として、学生の受験を促した。しかし、専門ゼミの選考が2年次後期に行われる他の学部で同じ手法が用いられるか検討の余地があろう。

2. 「進路の仮決め・希望進路調査」

2012年度より経済学部で、2013年度より全学で導入予定である。2年次4月に全員が「仮決め」を行い進路・就職についての意識を持たせることが必要である。95%の学生が「仮決め」を行うように啓蒙活動に力を入れてゆきたい。

取組③の「キャリアのための個別学習マップ（My Map）」

1. CCL、CMの作成更新

2012年度からCCL、CMを使用しての学生指導が始まる。実際の運用によって生じた問題を改善しながら、よりよいCCL、CMを作っていきたい

2. 全学生のMy Mapの作成

経済学部では2012年度6月に学生が教員と面談してMy Mapの作成を行う。とくにゼミを履修しない学生のMy Mapの作成が課題となる。1年次前期の基礎ゼミ教員がこまめに連絡を取って、全学生のMy Map作成を推進したい。

3. 就業力ハンドブック（「就業力強化書」）の活用

学生が就業力測定テストによって、自身の就業力を知り、目指す職種によって強化したい就業力を選んでいくように指導する必要がある。その就業力を学生生活の中で高めていくためのガイドブック（「就業力強化書」）を作成した。2年生ガイダンスの際に、就業力測定テストの結果を配布するとともに、「就業力強化書」も配布する。また、就業力測定テストの結果の説明会は、別途開催し、就業力測定テストの結果と「就業力強化書」の活用方法についても、説明を行う。

取組④ 海外キャリア研修の実施および国内・海外インターンシップの拡充

現在、参加希望者は定員を超えているので、新たな派遣先を探し続けることが必要である。その際、アジア地域でのインターンシップの可能性を探っていきたい。